

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：24102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593386

研究課題名(和文)施設助産師の臨床実践能力の継続的育成を目指した研修体制構築に関する研究

研究課題名(英文)Creation of a Training System for the Ongoing Development of the Clinical Competency in Facility-based Midwives

研究代表者

永見 桂子(Nagami, Keiko)

三重県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：10218026

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、A県内の医療施設で働く助産師(以下助産師)を対象とした卒後教育プログラムの検討により、助産師の成長過程に応じた実践能力獲得を支援する卒後研修体制構築への示唆を得ることである。

看護管理者・教育担当者である助産師への半構造化面接により、実践知の蓄積、助産管理能力、教育・研究能力、対人関係能力・組織力を培うための卒後研修体制の必要性が示唆された。『教育ニードアセスメントツール-助産師用-』と『学習ニードアセスメントツール-助産師用-』を用いた自記式質問紙調査により、役職や役割をもたない助産師は教育ニードが高く、周産期の救急看護・異常への対応などの学習ニードが高いことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted to obtain suggestions for the creation of a postgraduate training system to support the acquisition of the clinical competency in midwives according to the process of their development. This was achieved by examining a postgraduate training program for midwives working at medical facilities in A.Prefecture.

Semi-structured interviews with midwives acting as nursing administrators or training supervisors indicated the need for a postgraduate training system to gather practical knowledge and to cultivate midwifery management skills, training and research skills, interpersonal skills, and organizational skills. In addition, self-completed questionnaires including the "Educational Needs Assessment Tool for Midwives" and the "Learning Needs Assessment Tool for Midwives" revealed that midwives without a role or position had strong educational and learning needs in regard to treatment for emergency care and abnormalities during the perinatal period.

研究分野：母性看護学 助産学

キーワード：看護学 助産師 実践能力 卒後教育

1. 研究開始当初の背景

A 県は、都道府県別にみた人口 10 万対就業助産師数が全国最下位(平成 22 年末現在)であり、産科医師の不足を受けて、助産師の養成確保・定着促進・資質向上が急務となっている。

保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保を促進する法律の一部改正により、平成 22 年 4 月より新人看護職者への臨床研修が努力義務化され、平成 23 年 2 月には新人看護職員研修ガイドライン(厚生労働省)において、助産技術の到達目標、助産技術を支える要素が明示されるに至っている。

また、周産期医療の確保の視点からも、妊産婦の多様なニーズに応え、地域における安心・安全・快適なお産の場を確保するために、平成 20 年度より「院内助産所・助産師外来開設促進事業及び助産師活用地域ネットワークづくり推進事業」(厚生労働省)が推進されている。

A 県においても、平成 23 年度より「新人助産師合同研修事業」が開始され、平成 21 年度より「院内助産所・助産師外来開設のための助産師等研修事業」が継続的に実施されているものの、助産師が新人、中堅、エキスパートへと成長していく過程に応じた継続的な資質向上につながる卒後研修体制の構築には至っていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、A 県内の医療施設で働く助産師(以下助産師)を対象とした卒後教育プログラムを検討することにより、助産師の成長過程に応じた実践能力獲得を支援する卒後研修体制構築への示唆を得ることである。

3. 研究の方法

(1) 国内研究の動向と課題の明確化

卒後教育による助産師の実践能力育成に関して、国内ではこれまでどのような研究がなされているのかその動向を概観し、課題を明らかにする。

助産基礎教育、卒後教育体制の違いを考慮し、海外文献を除き、2003~2012 年の過去 10 年間を検索期間とし、医学中央雑誌 Web Ver.5 および CiNii をデータベースに「助産師」かつ「教育」、「卒後教育」、「継続教育」、「実践能力」、「臨床能力」、「能力」をキーワードとし 12 学会機関紙(母性衛生、日本看護研究学会雑誌、日本生殖看護学会誌、日本教育学研究、思春期学、日本女性医学学会雑誌、日本助産学会誌、日本母性看護学会誌、日本遺伝看護学会誌、日本看護科学学会誌、日本公衆衛生雑誌、日本看護学教育学会誌)に掲載された論文を検索した。論文数の年次推移、掲載誌別論文数、単著・共著別論文数、筆頭著者の所属別論文数、研究方法別論文数、研究分野別論文数、卒後教育における助産師の実践能力育成に関する社会的トピックス

を踏まえ動向を分析した。

なお、研究分野については、助産師の声明(2010)において、助産師の役割・責務、助産管理における役割・責務、専門職としての自律を保つための役割・責務に挙げられている項目を参考に、研究者間で協議し、【妊娠期のケア】、【分娩期のケア】、【産褥期のケア】、【新生児のケア】、【地域母子保健】、【ハイリスク・高度先端医療】、【出生前診断・遺伝相談】、【女性のライフサイクル】、【不妊】、【性感染症】、【月経障害】、【女性に対する暴力】、【助産管理】、【専門職としての自律】の 14 分野に分類した。

(2) 助産師の実践能力育成における課題に関する調査(以下調査 A)

A 県周産期母子医療センターの看護管理者・教育担当者である助産師が認識する助産師の実践能力育成における課題を明らかにし、助産師に必要な卒後研修体制について考察する。

助産師 5 名に自作のインタビューガイドを用いて半構造化面接を実施し、所属施設の助産師が実践している周産期における母子・家族支援の現状、周産期における母子・家族支援を実践するうえでの助産師の実践能力における課題などについて語りを得た。音声データを逐語録に起こし、質的記述的に分析し、カテゴリーを抽出した。分析結果の真実性・信憑性確保のため、複数の研究者で分析過程を共有し検討を重ねた。

(3) 助産師の教育ニード・学習ニードに関する調査(以下調査 B)

A 県内全ての産婦人科施設・助産所に所属する助産師の教育ニード・学習ニード、自己の目標や課題への取り組みを明らかにし、助産師の成長過程に応じた卒後研修体制について考察する。

測定用具には「教育ニードアセスメントツール-助産師用¹⁾」と「学習ニードアセスメントツール-助産師用²⁾」を用いた。両尺度とも信頼性と妥当性は検証されている。

「教育ニードアセスメントツール-助産師用-」は、8 下位尺度 40 項目から構成され、4 段階リッカート型尺度である。看護職者として望ましい状態と現状の乖離の程度を明らかにし、その乖離を小さくするために教育すべき側面を特定する。得点が高いほど看護職者として望ましい状態と現状の乖離が大きく教育ニードが高いことを示す。

「学習ニードアセスメントツール-助産師用-」は、30 項目から構成され、6 段階リッカート型尺度である。看護職者の学習ニードの高さと要望の高い学習内容を特定する。得点が高いほど学習者の興味・関心もしくは学習者がその知識・技術・態度への学習ニードの高さと要望が強いことを示す。

年代、助産師経験年数などについては自作の調査用紙にて質問した。自己の目標や課題

への取り組みについては、助産師としての自己の目標や課題にどのように取り組んでいるか自由記述を求めた。

A 県内の全産婦人科施設 88 施設 (311 部)、全助産所 33 施設 (48 部) に 359 部の調査用紙を郵送にて配布した。施設管理者を通して対象者である助産師に配布を依頼し、調査用紙は無記名、個別投函にて郵送で回収した。

教育ニード・学習ニードの分析には統計解析ソフト IBM SPSS Statistics ver21 を使用した。臨床指導者と新人指導担当者を役割群、看護部長および看護師長・副看護師長を役職群、その他の病院および診療所勤務の助産師をスタッフ群、助産所勤務の助産師を助産所群として比較検討した。

自己の目標や課題への取り組みについては、回答者を助産師経験年数別で 5 群 (5 年未満、10 年未満、15 年未満、20 年未満、20 年以上) に分け、各群の記載内容を質的記述的に分析し、カテゴリーを得た。分析にあたっては複数の研究者で内容解釈やカテゴリー分類・命名について検討した。

(4) 倫理的配慮

調査 A・B は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を経て実施した。

調査 B での「教育ニードアセスメントツール-助産師用-」と「学習ニードアセスメントツール-助産師用-」の使用については開発者の許諾を受けた。

4. 研究成果

(1) 国内研究の動向と課題の明確化

医学中央雑誌 Web Ver.5 から 68 編、CiNii からは 28 編の論文が抽出された。看護職のなかに助産師を含めており助産師に特化されていない論文等を除外し、29 編を分析対象とした。

既存の研究では、卒後教育での助産師の実践能力育成についてその実態や現状を明らかにするための調査研究が多くを占めていた。また、既存の研究は【妊娠期のケア】、【分娩期のケア】、【産褥期のケア】、【地域母子保健】、【ハイリスク・高度先端医療】、【女性のライフサイクル】、【助産管理】、【専門職としての自律】の分野に分類されるものであり、【新生児のケア】、【出生前診断・遺伝相談】、【不妊】、【性感染症】、【月経障害】、【女性に対する暴力】の分野に分類される研究はみられなかった。助産実践方法の開発などのエビデンスの蓄積が求められており、周産期ケアのみならず、女性の健康を支援する助産実践に資する研究が求められている。

卒後教育における助産師の実践能力育成に関する国内研究の動向を概観し、助産師の専門性発揮に対する社会的期待に応えるためには、助産師の実践能力育成について、助産師に特化した研究が進められ、助産の機能・役割・専門性を明確にしていくことが課題であることが見出された。

(2) 助産師の実践能力育成における課題に関する調査

研究参加者は副看護部長 1 名、副看護師長 3 名、病棟の教育担当者 1 名であった。

質的記述的分析により、5 つのカテゴリーが抽出され、看護管理者・教育担当者である助産師は、【助産モデルでケアを実践する】、【実践知を蓄積する】、【助産管理能力を培う】、【教育・研究能力を高める】、【対人関係能力・組織力を培う】ことが助産師の課題であると認識していることが明らかとなった。

看護管理者・教育担当者である助産師は、助産師には医師と協働していくための実践能力が必要であり、対象に安全・安楽を提供する、母子とその家族に寄り添うといった【助産モデルでケアを実践する】ことが求められていると自覚していた。一方で分娩件数の減少、ハイリスク妊産婦の増加、病院機能の縮小などを背景に助産師としての【実践知を蓄積する】ことが困難な状況にあり、助産師が多様なフィールドで経験を積むことが課題であるととらえていた。混合病棟における助産師としての働き方、仕事と育児の両立、助産外来運営のための人材不足などの課題に直面し、助産師としての専門性を発揮していくには【助産管理能力を培う】ことが必要であると認識していた。また、研究的態度や継続的な自己研鑽、後輩助産師を育てる能力など【教育・研究能力を高める】ことが必要であると実感しているものの、組織レベルでは風土が醸成されていないととらえていた。さらに、所属組織を超えたネットワークや助産師同士の意見交換の機会などを通して【対人関係能力・組織力を培う】ことも課題であると認識していた。

所属施設における役割に関わらず、助産師教育機関や専門職能団体などの活用、複数医療施設での合同研修などの工夫を通して、助産師一人ひとりがそれぞれの成長段階に応じて、継続的にバランスよく、実践知を蓄積し、助産管理能力、教育・研究能力、対人関係能力・組織力を培うための卒後研修体制の必要性が示唆された。

(3) 助産師の教育ニード・学習ニードに関する調査

調査用紙の回収数は 119 部 (回収率 33%) であり、有効回答 103 部 (有効回答率 86.8%) を分析対象とした。

対象者の経験年数は平均 11.5 年 (SD10.3) であり、スタッフ群 59 名 (57.3%)、役割群 21 名 (20.4%)、役職群 15 名 (14.5%)、助産所群 8 名 (7.8%) であった。

「教育ニードアセスメントツール-助産師用-」の総得点の平均は 90.6 点であり、スタッフ群が最も高く 106.6 点、次いで役割群、役職群、助産所群の順であった。スタッフ群のなかでも助産師経験 5 年以上 10 年未満の得点が最も高かった。「学習ニードアセスメ

ントツール-助産師用-」の総得点の平均は151.5点であり、助産所群が最も高く152.6点、次いでスタッフ群、役職群、役割群の順であった。スタッフ群のなかでも助産師経験10年以上15年未満の得点が最も高かった。

助産師経験5年以上10年未満のスタッフ群の教育ニードの高さや助産師経験10年以上15年未満のスタッフ群の学習ニードの高さを考慮した教育プログラムの立案や系統的な教育が課題であり、中堅助産師や役職・役割をもつ助産師、開業助産師等、助産実践能力習熟段階に応じた研修体制の必要性が示唆された。

「学習ニードアセスメントツール-助産師用-」の項目平均得点をみると、「周産期の救急看護に必要な知識・技術・態度(以下周産期の救急看護)」、「保健指導を効果的に行うために必要な知識・技術・態度(以下保健指導)」、「周産期の異常への対応に必要な知識・技術・態度(以下周産期の異常への対応)」などが高得点であった。スタッフ群では「周産期の救急看護」、役割群では「保健指導」、役職群では「周産期の異常への対応」、助産所群では「保健指導」などが高得点であった。スタッフ群では「生殖に関わる喪失体験をもつ女性の支援に必要な知識・技術・態度」、役職群では「助産業務管理に必要な知識・技術・態度」、助産所群では「性と生殖に関わる健康教育に必要な知識・技術」などそれぞれの群のみにみられた高得点項目があり、助産師の背景に応じた学習機会の提供が学習ニードの充足につながるものとする。

自己の目標や課題への取り組みとして11のカテゴリーが抽出された。【新たな知識獲得に向け自ら探索する】【具体的な目標を設定して取り組む】【積極的に自己研鑽の機会を作る】の3カテゴリーは助産師経験年数別のすべての群に共通して抽出され、専門職者としての役割意識の高さが反映されていた。経験年数10年未満の助産師は【先輩からコンサルテーションの機会を得る】ことで自己の目標や課題に取り組んでいたが、経験年数10年以上の助産師からは後輩教育に関する目標や課題は抽出されなかった。専門職者として助産師自ら後輩教育に関わる意識や能力を高めるための卒後教育プログラムの必要性が示唆された。

引用文献

中山登志子、舟島なをみ、教育ニードアセスメントツール 助産師用」の開発、看護教育学研究、2011、20(1)、8-17

中山登志子、舟島なをみ、学習ニードアセスメントツール 助産師用」の開発-助産師のキャリア発達に向けた看護継続教育の提供-、日本看護研究学会雑誌、2011、34(5)、1-10

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

田中利枝、岩田朋美、和智志げみ、西澤麻里子、二村良子、永見桂子、卒後教育における助産師の助産実践能力の育成に関する国内研究の動向と課題、三重県立看護大学紀要、第17巻、2013、81-88

〔学会発表〕(計3件)

和智志げみ、西澤麻里子、岩田朋美、田中利枝、二村良子、永見桂子、A県における施設助産師の自己の目標・課題への取り組み、第29回日本助産学会学術集会、2015.3.28、東京都

永見桂子、二村良子、田中利枝、和智志げみ、岩田朋美、西澤麻里子、施設助産師の卒後教育の現状と臨床実践能力における課題、第55回日本母性衛生学会学術集会、2014.9.13、千葉市

和智志げみ、岩田朋美、西澤麻里子、田中利枝、二村良子、永見桂子、A県における施設助産師の教育ニード・学習ニード、第55回日本母性衛生学会学術集会、2014.9.13、千葉市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永見 桂子 (NAGAMI, Keiko)
三重県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：10218026

(2) 研究分担者

二村 良子 (NIMURA, Ryoko)
三重県立看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：30249354

和智 志げみ (WACHI, Shigemi)
北里大学・看護学部・講師
研究者番号：70410173

崎山 貴代 (SAKIYAMA, Takayo)
三重県立看護大学・看護学部・講師
研究者番号：40321278
(平成25年1月17日辞退)

(3) 連携研究者

田中 利枝 (TANAKA, Rie)
創価大学・看護学部・助教
研究者番号：90515793
(平成24年度より連携研究者)

(4) 研究協力者

岩田 朋美 (IWATA, Tomomi)
三重県立看護大学・看護学部・助教
研究者番号：20609292

西澤 麻里子 (NISHIZAWA, Mariko)